

平成25年度東京都高等学校対校陸上競技選手権大会のみどころ

昨年の新潟インターハイでは、東京都の男子選手団は2種目に優勝し、8つの入賞を果たしました。また、1年間を通じ東京都高校新記録も4種目樹立するなど健闘しました。

今年度の大分インターハイ・東京国体を目指し今大会が南関東大会への関門となります。昨年を上回る活躍を期待したいと思いますので、みなさまの絶大なるご声援をお願いいたします。

男子

・短距離

100mでは、昨シーズンの実績を見ると内田 貴一（暁星3）と榎本 大樹（明星3）、そして林 謙太郎（八王子3）の上級生が優位と思われる。しかし、今年は素晴らしいルーキーが2人入学した。昨年度全国中学3位で10秒78の記録を持つ大嶋 健太（東京）とジュニアオリンピック優勝で10秒89の記録を持つ小池 真郁（久我山）が上級生を脅かすばかりか優勝候補の筆頭であろう。東京国体での活躍も期待されているだけに高校でのデビューに注目度も高く、一年生優勝も十分あり得るだろうし期待もしたい。

200mも100m同様で1年生の二人が有力だが、これに大澤 裕輝（八王子3）坪 祐貴（八王子2）が林と共に八王子の上位独占を目指してくるだろう。ハードルの向井 頌之（開成3）や中野 秀俊（桐朋3）も力をつけた様子で目が離せない。

400mでは、八王子の坪・大澤と東京の池田 亮平（3）が優勝を争うことが考えられるが、この種目にも期待のルーキーが存在する。城西高校に入学した椿 純平は昨年49秒33をマークしており実力も高校で十分通用するものを備えている。高いレベルの競り合いから47秒から最低でも48秒台前半での優勝を期待したい。

・中長距離

昨年、インターハイ・国体・ジュニアの三冠を達成した三武 潤（城西卒）が卒業しさびしくなった。昨年のこの大会では1分55秒前半でも予選を通過しないといった好記録が連発した。今年もハイレベルな戦いを期待したい。その中で、昨年1分54秒台をマークしているのが、戸澤 文也（城西3）織田 修平（保善3）吉村 佳祐（拓大一3）手塚 光貴（日大豊山2）の4名であり今大会でもレースの中心となるだろう。支部予選の結果から長尾 俊希（城西2）齋藤 雅英（早実1）にも勝機があると思われる。この種目、タイムレースの予選が一つのカギとなるが、昨年同様有力選手が落選するようなことが起こるかもしれない。

1500mと5000mでは、有力選手が多かった3年生が抜けて「混戦必至」な2種目である。その中で、この大会で優勝を狙えそうなのは、久我山の岡田 健（2）と拓大一の茂木 圭次郎（3）ではないだろうか？ 1500mではすでに昨年両名とも4分を切っている。さらに岡田は昨年の岐阜国体少年B3000mでも入賞し、昨年の時点で14分37秒75の記録をマークしているだけに今大会の注目すべき中心選手であろう。新入生の斉藤 寛明（久我山）にも期待したい。

3000mSCは、高橋 叶（久我山3）が実力的に優位で、終始先頭に立ちレースを牽引しそうだ。伊藤 陸・大橋 直矢（ともに大東一3）夏目 享（拓大一3）らも走力は充分なだけに9分30秒を切りたいところ。

・ハードル

110mHは、昨年の新潟インターハイで準決勝まで進出した坂本 景（東京3）が出場唯一14秒台の記録を持ち、実績も最上位であろう。自己記録は14秒71だが風力などの条件次第では14秒台前半が出てもおかしくない。前田 洋志（東京3）、向井 頌之（開成3）、小田島 義則（都芦花3）、荒井 駿哉（立教池袋2）、栗城アンソニータイレル（八王子2）にも十分勝機はあるが、この冬でどれだけ成長したか楽しみである。

400mHも坂本が昨年54秒13をマークし関東新人3位とし一歩抜け出している。坂本と同じく54秒台の記録を持つ向井との「一騎討ち」となりそうだ。向井はこの冬にだいぶ走力を上げた様子でかなりの期待ができそうだ。全国を考えると今大会で52秒台を期待したい。

・競歩

5000m競歩では、今季すでに20分台をマークし東京都高校記録まであとわずかに迫っている山口 壱平（東京実業3）が全国大会でも優勝候補に成長してきた。昨年南関東大会に出場している川上 勇一郎（明大中野3）も21分台に迫っており全国レベルである。また、桂 大虎（錦城3）も有力であるが冬にケガをしており回復具合が気にかかる。大分インターハイへ向け今大会を切り抜けてもらいたい。

・跳躍

走高跳でも有望なルーキーがデビューする。昨年のジュニアオリンピックで優勝し2m05の東京都中学新記録をマークしている平塚 玄空（岩倉）が、今大会に出場する選手で唯一2mを越えている。しかし、上級生も黙っていないだろう。自己記録から見ると寺内 友也（東京3）、横戸 寛之（堀越3）が平塚に対抗するだろう。ほかにも2mを超える可能性のある選手はいるだけに、今年も試技差で関東出場が決まるかも知れない。

棒高跳は、昨年の実績から見ると4m50を跳んだ田代 丈（東京2）がリードしていると言えるが、今シーズンは渡邊 淳之（都日比谷3）、秋山 優（都竹早3）が4m40を越えており、田代の独壇場とはならないだろう。また、強化練習の成果からか、入賞ラインは4m以上となりそうだ。

走幅跳は、岐阜国体少年男子Bで入賞した間中 太亮（日大豊山2）が故障で支部予選を棄権した。そうすると内川 佳祐（東京3）が優位となるところだが、同じ東京の2年生井関 慶人が東京選手権で7mを越えており内川と競い合うことだろう。これに前田 淳（早実3）、斉藤 拓海（八王子3）中村 健士（都調布北1）らがチャンスをうかがうが7mを越えないと優勝はないだろう。

三段跳びでは、インターハイで決勝に進出し14m83の記録を持つ東京の内川が断トツだ。故障等のない限り優勝は揺るがない。しかし、走幅跳と同じく斉藤・井関、そして風見 優太（日体荏原3）あたりが14m後半を目指したいところだ。

・投擲

砲丸投・円盤投とも東京高校の安藤 夢が優勝しそうだ。特に円盤では支部予選で48m00の東京都高校新記録を樹立しており、今年の大分インターハイでも注目選手といえよう。安藤に迫りそうな選手は、円盤で同じ東京の栗城 湧介（3）が45mを越える可能性があるので安藤と競り合う可能性もあるだろう。

ハンマー投げでは、冬季の強化練習の成果が出ており、50mに迫る戸山 和紀（顕明館3）石垣 俊典（保善3）の優勝争いとなるだろう。この二人に三浦 悠太・南 陽介の保善高校勢で50m以上の投げ合いを期待したい。45mあたりが入賞ラインとなるだろう。

やり投げは、支部春季競技会で東京成徳の榊原 芳章（3）・山田 舜（2）が共に55mを越え成長がうかがうことができる。また、支部予選で56m38を投げた佐々木 佑太（八王子3）と投擲三冠を目指す安藤に、田島 史章（岩倉2）のパワーが対抗しそうだ。60mを大きく越える放物線を見せてもらいたい。

・混成競技

昨年は栗原 理彰（都東大和卒）が東京都高校新記録を樹立しインターハイ3位としたこの種目だが、試合経験の少ない東京都選手たちがどれだけ成長したかは今大会でしか見られない。しかし、昨秋の結果から浅澤 豊（都駒場3）がすでに全国出場ラインの5000点を越えており最有力である。村山 航大（東海大高輪台3）、黒沢 晃希（都東大和3）、生方 雅之（東京3）も全国出場を狙える選手であり期待も大きい。

・リレー

400mリレーでは八王子・東京・成城・城西の4校が競り合うことだろう。その中で、インターハイを経験した2・3年生が多い八王子がややリードしているだろう。近年40秒台が続発しているこの種目は、今年も全国・関東でもレベルが高いだけに41秒前半は必修であるだけにバトンパスに磨きをかけてもらいたい。

マイルリレーでも八王子が一步抜きこんでいる。それを日大豊山が接戦に纏れさせるだろう。城西・都文京あたりが混戦を制すれば勝機がありそうだ。「総力戦」となる最終種目のバトルを期待したい。

・総合は東京高校に間違いはないだろう。全般に満遍なく得点を重ね連覇を遂げそうだ。